

きいて・めもして・こたえよう

けいさつの人^{ひと}の話^{はなし} 一一〇番^{ひゃくとおばん}の しくみ

なまえ
名前

聞くめあて 「一一〇番^{ひゃくとおばん}」の電話^{でんわ}がどこにつながり、けいさつかん^くが来るま
で、どんな「じゅんじょ^{すす}」で進むかをメモしましょう。

おとさない言葉^{ことば}：じゅんじょ^{ばしょ}・場所^{すうじ}・数字

放送^{ほうそう}が終^おわった^ら、開^{ひら}いて問^{もん}題^{だい}に答^{こた}えましょ。う。

(一) 一一〇番^{ひゃくとおばん}に電^{でん}話^わをかけると、電^{でん}話^わはどどこにつな^つが^がり^りま^ます^すか。

(二) 通^{つう}信^{しん}指^し令^{れい}室^{しつ}で話^はす^すと^ときに、大^{たい}切^{せつ}なこ^こと^として言^いっ^ていた^たのはど^どれ^れで^です^すか。

ア 大^{おお}き^きな声^{こゑ}で早^{はや}く話^はす

イ おち^おつ^ちい^いて話^はす

ウ 友^{とも}だ^だち^ちにかわ^わつ^つて^ても^もら^らう

(三) 場^ば所^{しょ}が分^わか^から^らない^いと^ときは、何^{なん}を伝^{つた}え^える^ると^とい^いと^と言^いっ^てい^いま^まし^した^たか。

(四) けいさつの人^{ひと}に、も^もつ^つと^と聞^きい^いて^てみ^みたい^いこ^こと^とを、一^{ひと}つ^つ「し^しつ^つも^もん^んの^ぶん^ん」で書^かき^かま^まし^しょう^う。

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする（問題を先に見せない）。
- ② この放送文を先生が読む（または用意した音声流す）。読む回数：2回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

今日は、けいさつしょで働く人に来てもらいました。みなさんは、こまったときにかける「一一〇番」を知っていますか。今日は、電話をかけてから、けいさつかんが来るまでの流れを話します。

まず、一一〇番に電話をかけると、その電話は、けいさつしょではなく、「通信指令室」というところにつながります。そこでは、「どこで、何が、どうしたのか」を、おちついて話すことが大切です。場所が分からないときは、近くの店や、目印になる建物を伝えま

す。

通信指令室は、話を聞きながら、すぐに近くのパトカーに知らせます。知らせを受けたパトカーは、げんばへ急いで向かいます。はやいときには、電話をかけてから数分で着くこともあります。

けいさつかんは、わたしたちの安全を守るために、一日中、町を見回っています。こまったことがあったら、一人でなやまず、近くの大人やけいさつに相談してくださいね。

メモのれい

けいさつの人の話 一一〇番のしゅみ

- ① 電話→通信指令室（けいさつしょではない）
- ② 大切：おちついて「どこで・何が・どうした」／場所は店・目印・建物
- ③ 指令室→パトカーへ→げんばに急ぐ（数分で着くことも）

こたえと かいせつ

(1) 通信指令室

「けいさつしょではなく、『通信指令室』というところにつながります」の部分です。まちがえやすいので、しっかりメモします。

(2) イ（おちついて話す）

「おちついて話すことが大切です」と言っていました。大きな声や早口ではなく、おちついて話すことが大事です。

(3) (例) 近くの店や、目印になる建物。

「近くの店や、目印になる建物を伝えます」の部分です。「店」「目印」「建物」のどれかが書けていれば正解です。

(4) (例) 一日に何回くらい一一〇番はかかってきますか。／パトカーは何台ありますか。

話の中身に関係する「たずねる文（～ですか。）」になっていれば正解です。聞きながらしゅもんを考える力を見ます。